

米国 製造業部門は緩やかな調整局面(2007年1月 I S M製造業景気指数)

発表日：2007年2月1日(木)

～新規受注・在庫比率が上昇しており今後もモメンタムの大幅な低下は回避～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

I S M (the Institute for Supply Management) の推移

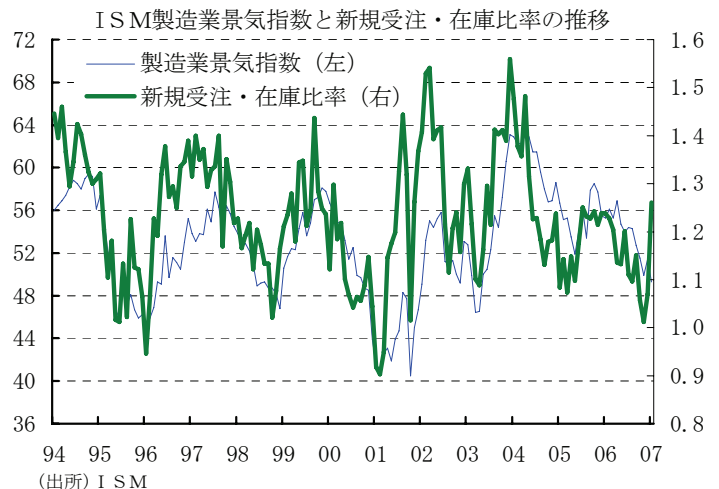
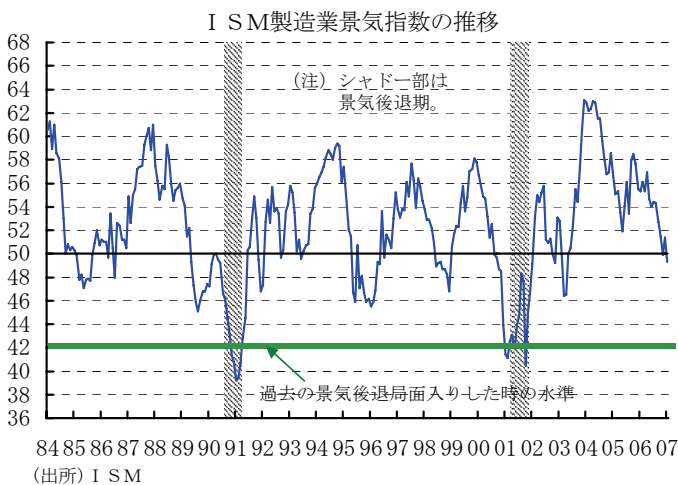
	総合	生産	雇用	在庫	入荷遅延	新規受注	受注残	仕入価格	輸出受注	輸入
06/01	55.3	57.6	52.6	46.8	55.3	57.9	53.5	65.0	58.5	57.0
06/02	56.1	57.9	53.7	49.3	52.2	60.5	54.5	62.5	57.0	57.5
06/03	55.3	57.2	52.7	48.5	53.7	58.4	59.5	66.5	57.3	57.0
06/04	56.9	59.8	55.1	50.7	57.2	57.6	57.0	71.5	53.4	59.0
06/05	54.7	57.3	52.7	48.4	57.1	54.8	53.0	77.0	55.7	56.5
06/06	54.0	55.2	49.4	47.8	55.1	57.4	54.0	76.5	55.4	56.5
06/07	54.4	56.8	51.1	50.1	55.4	55.6	50.5	78.5	51.9	57.5
06/08	54.3	55.5	53.9	49.8	54.9	54.6	51.5	73.0	55.7	54.0
06/09	52.7	54.9	49.6	47.1	54.1	54.2	46.5	61.0	55.3	56.0
06/10	51.5	52.7	50.6	49.3	50.6	52.1	44.5	47.0	57.8	57.0
06/11	49.9	49.3	48.9	49.1	52.8	49.7	46.5	53.5	56.9	56.5
06/12	51.4	52.4	49.4	48.5	53.3	51.9	45.0	47.5	54.3	55.5
07/01	49.3	49.6	49.5	39.9	52.7	50.3	43.5	53.0	52.5	54.5

49.3 と前月比 2.1 ポイント低下

2007年1月のISM製造業景気指数は、49.3と市場予想の51.7への上昇に反し前月から2.1ポイント低下した。再び拡大縮小の分岐点である50を下回り、製造業部門の緩やかな調整が続いている。ISMによると1月の49.3という水準は、実質GDPに換算すると+2.3%成長を示すものとしており、2007年1～3月期の緩やかな成長を示唆している。

指数を構成する5項目をみると、雇用が小幅上昇したものの、新規受注、生産、在庫、入荷遅延が低下した(詳細は後述)。また、拡大した業種数は20業種中7業種(前月9業種)と小幅低下した。

先行きについては、新規受注が低下したものの在庫が大幅に低下したため、ISM製造業景気指数に1、2ヵ月先行する新規受注・在庫比率が上昇しており、ISM製造業景気指数は2月に小幅上昇する可能性がある。ただし、需要の鈍化、それに伴う在庫調整によって、製造業部門のモメンタムは2007年前半も停滞すると予想される。

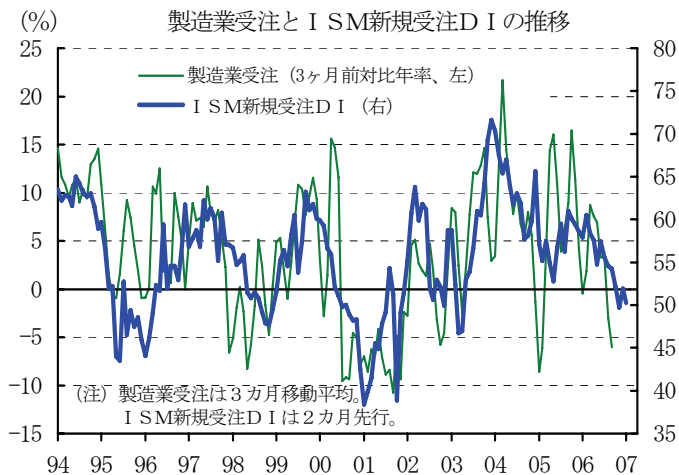
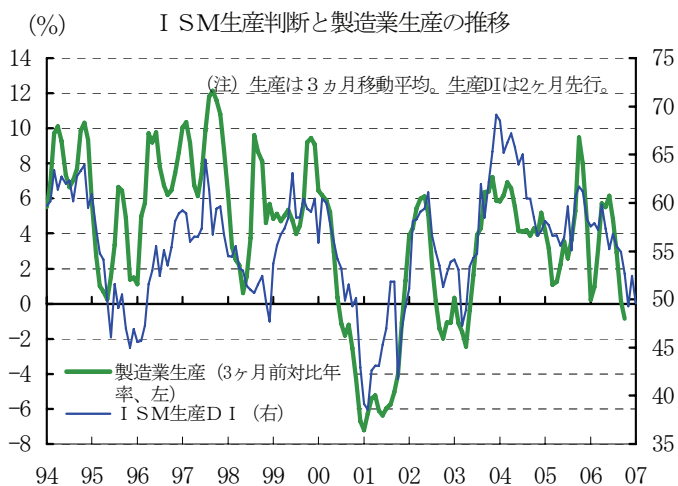


本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

製造業受注・生産統計の一本調子での悪化は回避

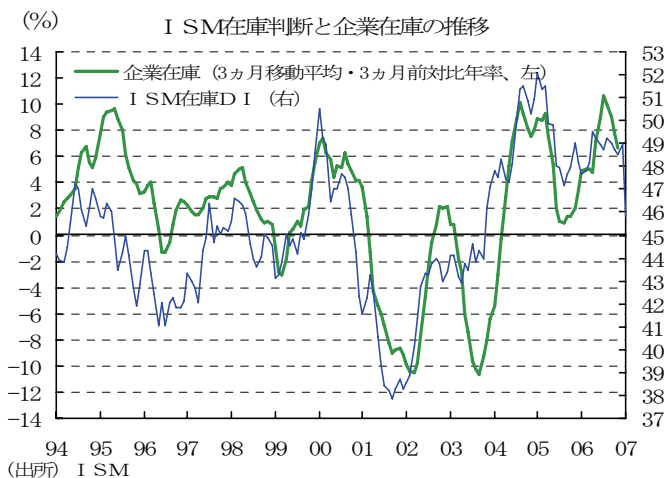
DIを個別にみると、生産指数が12月に一旦上昇したことから、製造業生産（FRB、3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率）も悪化に歯止めがかかると予想される。しかし、1月に生産の拡大した業種数が5業種（前月6業種）と減少するなかで、生産指数が前月から2.8ポイント低下し再び50を下回ったことから、製造業生産の戻りは限定的なものになるとみられる。

新規受注指数は一本調子での低下が回避されていることから、製造業受注（商務省、3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率）も一旦上昇に転じるとみられる。ただし、新規受注の拡大した業種数が10業種（前月10業種）にとどまっているうえ、新規受注指数が前月から1.6ポイント低下したことから、製造業受注の上昇も小幅なものが予想される。



在庫調整は軽微なものにとどまる公算

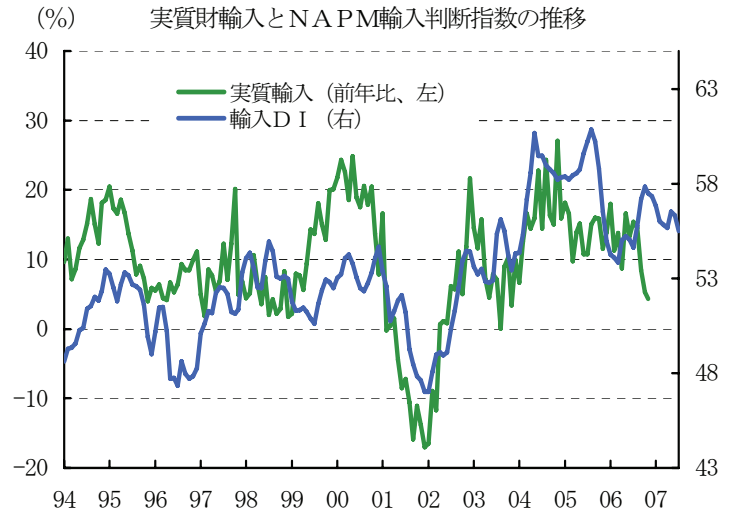
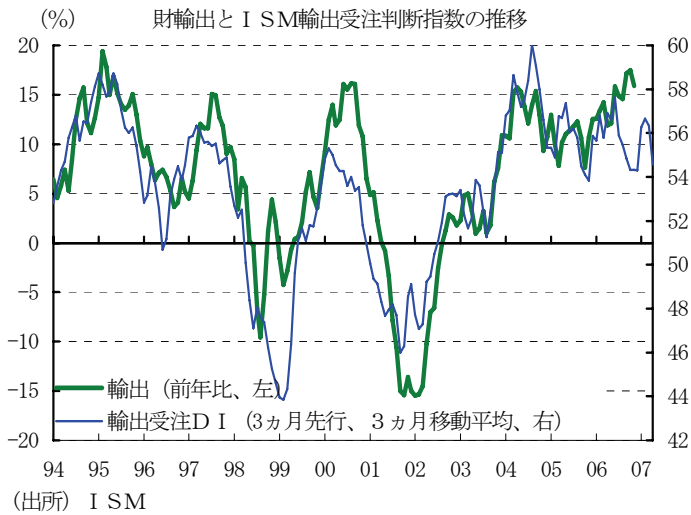
在庫面では、在庫指数が39.9と前月から8.6ポイント低下し、在庫を増やした業種数も20業種中3業種と前月の6業種から減少した。新規受注と同時に在庫が増加する前向きな在庫の拡大が2業種（前月5業種）に減少し、製造業では在庫の積み増しに慎重な姿勢に変化はないと判断される。また、受注が増加するなかで、在庫の減少した業種数が8業種（前月5業種）に増加したうえ、新規受注が減少するもとで在庫が増加する、悪い在庫増となった業種は1業種（前月1業種）にとどまっていることから、現在の在庫調整が深刻なものになるリスクは小さい。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

**貿易赤字は高水準
持続**

外需に関しては、輸出受注指数が52.5と前月の54.3から小幅低下したが水準が高いことに加えて、通関統計に3ヵ月先行する3ヵ月移動平均では9月をボトムに上昇していることから、輸出（通関ベース）は1月にかけて高い伸びを維持する可能性がある。一方、輸入指数も54.5と前月の55.5から小幅低下したが高い水準を維持しており、通関ベースでの輸入の増加ペース加速を示唆している。このため、貿易赤字額は高水準で推移する可能性が高い。

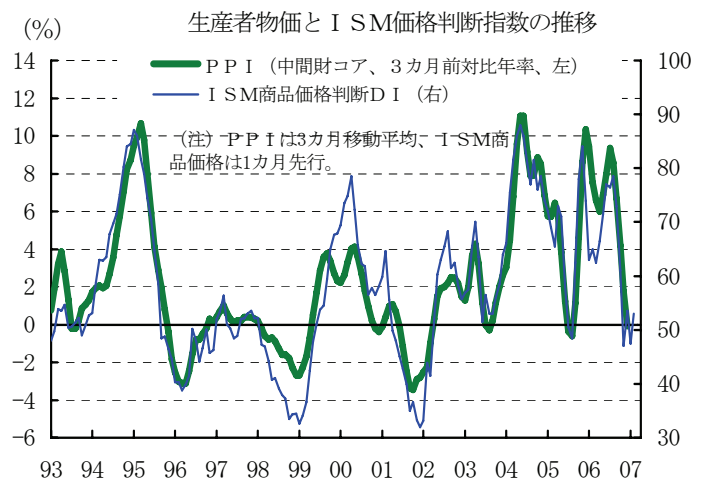
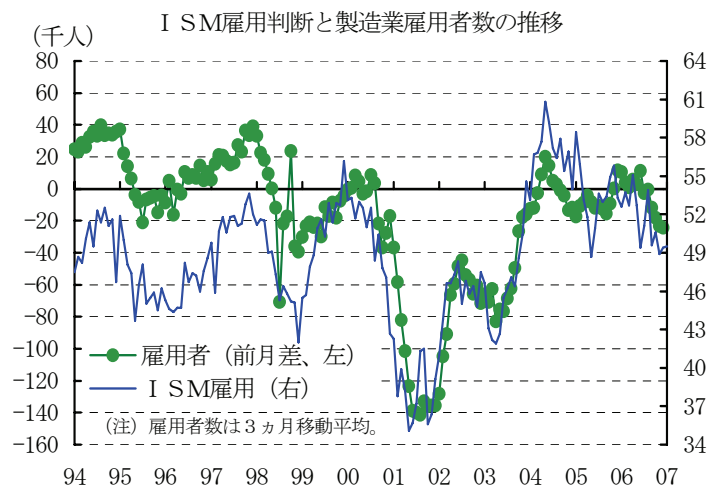


**製造業雇用は減少
が続く公算**

雇用関連では、雇用指数が49.5（前月49.4）と上昇したものの水準が低く、雇用の増加した業種数も6業種（7業種）と低下しており、製造業雇用者数（3ヵ月移動平均）は1月も減少すると見込まれる。

**目先川中での物価
上昇圧力は一段と
緩和する公算**

物価面では、商品価格指数（仕入れ価格）は53.0と再び50を上回ったものの低い水準にとどまっていることから、商品価格指数に遅れて動く傾向があるPPI（中間財コア）は3ヵ月前対比年率で2月にかけて鈍化する可能性が高い。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。